

# 第3章 都市づくりの目標

- 3-1 都市の将来像とまちづくりの目標(ビジョン)
- 3-2 まちづくりの基本方針
- 3-3 目標人口
- 3-4 将来都市構造



### 3-1 都市の将来像とまちづくりの目標(ビジョン)

#### 【都市の将来像】

本計画の上位計画である「海津市第2次総合計画」では、人々が水と緑といった美しく潤いのある自然環境の中で安心して働き、今まで築き上げてきた教育、歴史、文化のもとで次の時代を担う子どもたちを安心して育てるとともに、(仮称)海津スマートインターチェンジ開通を契機として、産業振興による地域の活性化を図り、全ての人々が手を取り合い取り組む(輪でつながる)まちづくりを目指して、『水と緑と人がきらめく 輪でつながるまち 海津』を将来像としています。

本計画では、「海津市第2次総合計画」の実現のため、同様の将来像とします。

#### 【都市の将来像】

**水と緑と人がきらめく 輪でつながるまち 海津**

#### 【まちづくりの目標(ビジョン)】

都市の将来像の実現を図るため、「都市構造」「都市生活」「都市活力」「都市防災」「都市環境」の視点ごとに、まちづくりの目標(ビジョン)を設定します。

視点	まちづくりの目標(ビジョン)	SDGs	海津イレブン ※P.76~77を参照
都市構造	持続可能性が高い多極ネットワーク型のコンパクトなまちづくり	4 質の高い教育をみんなに、11 住み続けられるまちづくりを、12 つくばないで暮らす	3 4
都市生活	世代間交流が活発な、快適で住み良いまちづくり	3 気候変動に具体的な対策を、4 質の高い教育をみんなに、6 安全な水とトイレを世界中に、11 住み続けられるまちづくりを、12 つくばないで暮らす	3 4
都市活力	(都)東海環状自動車道の効果を最大限発揮するまちづくり	6 安全な水とトイレを世界中に、8 働きがいのある人間らしい暮らし、9 産業と雇用を創出する、11 住み続けられるまちづくりを	2 3 6 8 9 10
都市防災	災害に強い安全・安心なまちづくり	6 安全な水とトイレを世界中に、11 住み続けられるまちづくりを、13 気候変動に具体的な対策を	5
都市環境	水と緑を活かしたまちづくり	2 気候変動に具体的な対策を、6 安全な水とトイレを世界中に、11 住み続けられるまちづくりを、15 陸の豊かさを保ち増進させる	5 6 7 10

〈SDGsとは〉

持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)とは、平成 13(2001)年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、平成 27(2015)年 9 月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された、令和 12(2030)年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。SDGs は発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



出典:外務省 HP、国際連合広報センターHP

子育て世代に選ばれる  
**まちづくり**

海津市の  
**重点施策** **11**

海津イレブン

**1** 子育て支援の充実  
**切れ目のない子育て支援**

妊娠期から子育て期にわたって安心して住み続けることができる子育て環境づくりに取り組むとともに、子育て世代の経済的負担の軽減を図ります。



**2** 計画的な土地利用の推進  
**海津SIC(仮称)周辺をはじめとする土地利用**

東海環状自動車道 海津スマートインターチェンジ(仮称)周辺の開発や宅地化の促進など、計画的な土地の活用と保全に取り組みます。

**7** 農林漁業の振興  
**稼げる農業・雇用を生む農業の実現**

スマート農業や6次産業化、海津型農業の推進等により、稼げる農業・雇用を生む農業の実現を目指します。

**3** 交通網の整備  
**交通アクセスの改善と公共交通の維持・確保**

都市圏への交通アクセスの改善を図るとともに、地域公共交通の維持・確保を目指します。また、東海環状自動車道西回り区間の全線開通を見据え、周辺道路の整備を行います。

**8** 商業の振興  
**賑わいと活力ある商業地づくり**

商工団体と連携しながら後継者の育成、経営環境の改善等を図り、持続可能な商業地の形成につなげます。

また、地域の特色を生かした特産品を開発するなど、観光事業と連携した商業環境づくりを進めます。

**4** 住環境の整備  
**子育て世代の定住促進**

子育て世代のU・Iターンを促進し、移住・定住先として選ばれるまちづくりを進めるとともに、住宅地の整備や住宅取得への支援に取り組みます。

**9** 工業の振興  
**西回りルートの中線開通を見据えた地域経済の活性化**

東海環状自動車道西回り区間の全線開通を見据え、企業誘致の取組みを加速するとともに、既存事業者の規模拡大や新分野参入を支援し、地域経済の活性化につなげます。

**5** 防災対策の充実  
**防災・減災対策**

自然災害に対する強靱化と危機管理体制の強化を図るとともに、市民、事業者、行政の連携による防災・減災体制の構築に取り組みます。

**10** 観光の振興  
**地域資源を活かした観光振興**

魅力ある観光資源や地域資源をさらに磨き上げるとともに、地域情報の発信力を強化して、関係人口・交流人口の増加と賑わいあるまちづくりにつなげます。

**6** 学校教育環境の充実  
**多様な個性を引き出す教育**

誰一人取り残すことなく、子どもたちの多様な個性を最大限に生かす教育を推進します。また、市の歴史や自然・文化を学び、郷土愛を育む教育を推進します。

**11** 効率的な行財政運営の推進  
**持続可能な行財政運営**

行財政資源の選択と集中により、健全で持続可能な行財政基盤の強化を図ります。

## 3-2 まちづくりの基本方針

まちづくりの目標の具体的な方向性として、まちづくりの基本方針を以下のように定めます。

視点

まちづくりの基本方針

都市構造

- 人口減少に対応するため、既存の生活圏の集約を図り、コンパクトなまちを目指します。(土地利用)
- 各生活圏の機能を補完するために、地域間交通ネットワークが充実した多極ネットワーク型のまちを目指します。(道路・交通体系)

都市生活

- 近隣生活圏での社会生活サービスの充実及び空家・空地の解消に努め、快適で住み続けたいと思えるまちを目指します。(土地利用)
- 少子高齢化が進むなかで、自動車等の個別交通手段を所有していない交通弱者の増加に対し、公共交通網の充実を図り、誰もが不自由なく移動できるまちを目指します。(道路・交通体系)
- 世帯人員が減少していくなかで、公園の整備等による公共空間の充実を図り、地域コミュニティの交流を促進することで、世代間交流が活発なまちを目指します。(水と緑)
- 生活基盤整備の充実した、生活水準の高いまちを目指します。(生活基盤整備)

都市活力

- (都)東海環状自動車道の開通による周辺地域の立地ポテンシャルの高まりを活かし、産業力の強化と就業機会の創出を図ることで、活力あるまちを目指します。(土地利用)
- (都)東海環状自動車道の開通に合わせ、周辺都市との連絡機能強化に向けた幹線道路網の整備や(仮称)愛津大橋の実現により、広域圏における要となるまちを目指します。(道路・交通体系)
- 本市特有の自然的・歴史的・文化的な資源の魅力向上に努め、広域的な集客能力の高いまちを目指します。(自然環境の保全と景観形成)

都市防災

- 避難場所となる公園の整備や、雨水の貯留機能等を持つ緑地の維持管理等により、グリーンインフラの充実を図り、防災・減災機能の高いまちを目指します。(水と緑)
- 激甚化・頻発化する大規模自然災害に対し、治水・治山の基盤整備や建築物の耐震化・不燃化により、市民が安全・安心に暮らすことのできるまちを目指します。(都市防災・災害対策)

都市環境

- 農家数の減少に対し、スマート農業の導入等により、労働生産性の高いまちを目指します。(土地利用)
- 長良川や揖斐川をはじめとする河川や池沼及びその近隣に位置する公園・緑地を適切に保全・活用し、水郷としての魅力あふれるまちを目指します。(水と緑)
- 市西部に広がる養老山地等の緑地を保全し、環境にやさしいまちを目指します。(自然環境の保全と景観形成)

### 3-3 目標人口

本市の人口は、平成 7(1995)年を境に年々減少しています。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、このまま対策を講じない場合、令和 12(2030)年には 26,667 人、令和 22(2040)年には 21,010 人となる見込みです。

そこで、「海津市第 2 次総合計画」や「海津市人口ビジョン」では、雇用の確保と増大を図るための産業振興、住環境の整備や市街地の形成、交通網をはじめとした交流基盤の整備等に取り組むとともに、若年世代が安心して暮らすことのできる子育て環境や教育環境の整備等、総合的なまちづくりを推進しています。

そのため、本計画では、上位計画である「海津市第 2 次総合計画」や関連計画である「海津市人口ビジョン」と整合を図り、目標年次の令和 14(2032)年の目標人口を 27,000 人とします。

#### 【目標人口】

**27,000 人(令和 14(2032)年)**

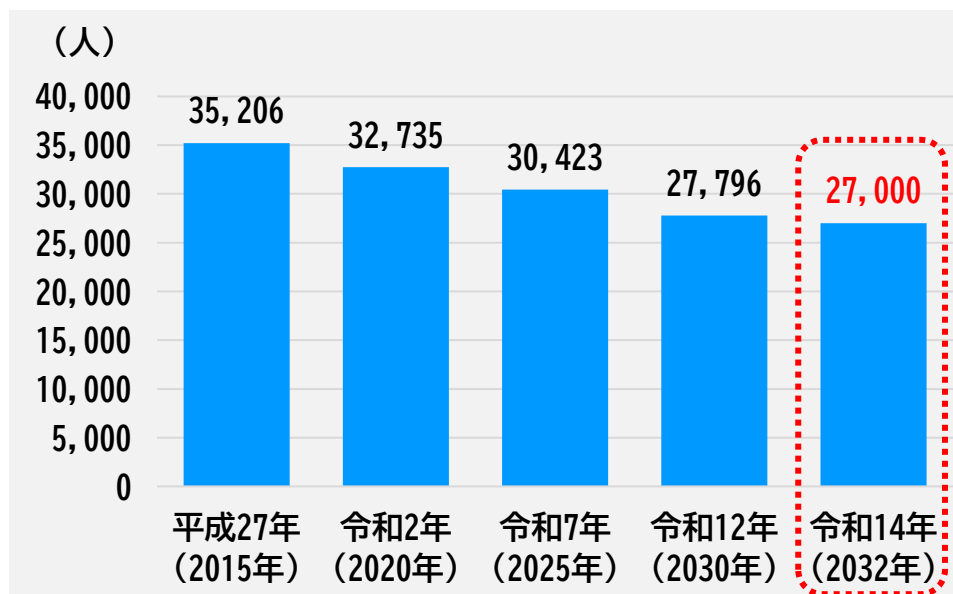


図 将来人口推計及び目標人口

### 3-4 将来都市構造

都市構造を構成する要素として、「拠点」「軸」「エリア」を設定し、将来の都市の骨格的な構造を設定します。

〈都市構造の構成要素〉	
■拠点	都市活動の中心であるとともに、都市形成の核となる地区
■軸	都市内外のネットワークを形成する連携・交流の動線
■エリア	概ねの機能・性格に区分した土地のまとまり

拠点	地域生活拠点	市民の日常的な生活行動圏を踏まえ、旧町の中心部でもあり、既に一定の都市機能が集積する海津市役所、平田支所、城山支所、並びに養老鉄道駒野駅・美濃松山駅の周辺において、身近な社会生活サービス機能の集積を図る『地域生活拠点』を設定します。
	新生活拠点	新たな地域住民の生活圏の集約・形成の要となる拠点として、美濃津屋駅や美濃山崎駅、石津駅の周辺に『新生活拠点』を設定します。
	産業拠点	本市の産業振興と雇用創出を図る新たな企業立地の推進に向け、(仮称)海津スマートインターチェンジ周辺と駒野工業団地を中心に、先導的に産業集積を図る『産業拠点』を設定します。
	観光交流拠点	県内有数の観光地である千代保稲荷神社や千本松原・国営木曾三川公園、羽根谷だんだん公園、道の駅「クレール平田」、道の駅「月見の里南濃」、海津温泉、南濃温泉「水晶の湯」等の観光・集客施設を中心に、広域的な集客を担う『観光交流拠点』を設定します。



軸	鉄道軸	養老山地の山麓に沿って本市を縦走し、大垣市と桑名市を結び、沿線の都市や地域間を連絡する養老鉄道を『鉄道軸』として位置づけます。
	広域連携軸	全国の主要都市や周辺都市を結ぶ交流・物流を支える軸として、(都)東海環状自動車道を『広域連携軸』として位置づけます。
	都市間連携軸	都市構造の骨格となり、本市と名古屋市や大垣市、桑名市等の隣接都市とを結び、広域化する生活行動・都市活動を支える軸として、(国)258号や(主)北方多度線、(主)南濃関ヶ原線、(主)岐阜南濃線、(主)津島南濃線、(一)安八平田線、(一)養老平田線、(一)安八海津線、(一)佐屋多度線、(一)桑名海津線、海津33086号線、広域営農団地1号線、(仮称)安江日原線、(仮称)輪之内海津線を位置づけます。
	地域間連携軸	市内の地域間を結び都市間連携軸を補完する軸として、(一)木曾三川公園線や(一)津島立田海津線、海津23881号線、海津11010号線を『地域間連携軸』として位置づけます。
	河川軸	自然と調和したうまいある地域形成に向けた環境ネットワークとして、長良川や揖斐川、津屋川、大江川、大樽川を『河川軸』として位置づけます。
エリア	市街地エリア	都市機能や産業、居住等を計画的に集積・誘導することを目的に、市役所及び支所周辺の居住集積地や鉄道駅周辺、幹線道路沿道、主要観光施設周辺、(仮称)海津スマートインターチェンジ周辺、駒野工業団地周辺を『市街地エリア』として位置づけます。
	農地・集落エリア	多面的な機能を有する農地や既存集落を保全し、自然環境と共生した水郷の里の形成に向け、長良川や揖斐川の流域に広がる平坦な土地については、『市街地エリア』と『自然地エリア』を除き、『農地・集落エリア』として位置づけます。
	自然地エリア	緑豊かな森林資源や親水空間を保全・活用することを目的に、養老山地や河川、池沼を『自然地エリア』として位置づけます。

# 海津市都市計画マスタープラン

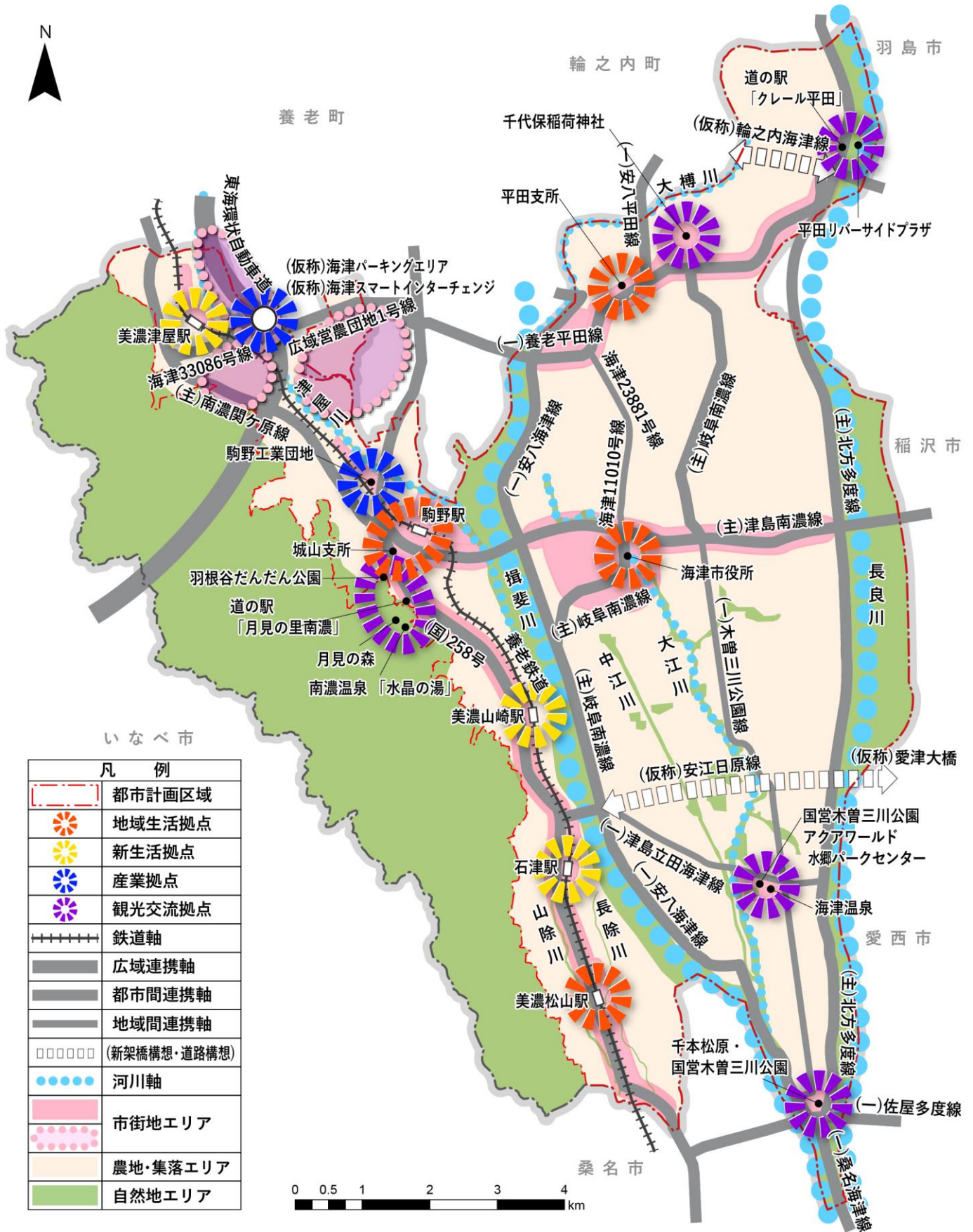


図 将来都市構造図